

# 意見書

平成25年8月27日

萩原遼



## 1 経歴等

私は、1937年に高知県に生まれました。17歳の時に地元の高校を中退して上阪し、住み込みの牛乳配達などをして働き、18歳の時に大阪府天王寺高校定時制に編入し、共産党に入党しました。定時制高校で同級生となった在日朝鮮人、尹元一と親交を深め、やがて朝鮮語の学習を強く希望するようになりました。尹は1960年4月、「祖国の社会主義建設に参加する」と言って前年の12月から始まった《帰国運動》に参加して単身北朝鮮にわたりました。

26歳の時、私は、大阪外国語大学に新設された朝鮮語学科に第一期生として入学しました。卒業後は「赤旗」の特派員として北朝鮮にわたり、平壤に約1年間滞在しました。その時、北朝鮮にわたった親友を探し回ったことが原因でスパイ容疑をかけられ、北朝鮮から国外追放になりました。私が北朝鮮問題に深く係わるようになった理由はこの時の体験にあります。

1988年に赤旗の記者を辞めたのを機にアメリカにわたり、米国公文書館の北朝鮮資料160万ページを綿密に調べあげ、まとめた作品が1993年に発表した『朝鮮戦争 金日成とマッカーサーの陰謀』（文藝春秋）です。ソ連崩壊後に出てきた資料よりも前に、北朝鮮の資料だけに基づいて朝鮮戦争が北から仕掛けたものであったことを明らかにしたものでした。

1994年2月、小川晴久元東京大学教授、金民柱元朝鮮総連幹部らとともに「北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会」（以下「守る会」といいます。）を結成しました。《帰国運動》によって日本から北朝鮮に帰国した10万人の在日朝鮮・韓国人と日本人妻達を悲惨な現状から救うことを目的とする会です。発足集会では多数の総連関係者による襲撃、暴力的な襲撃を受けました。1997年には、活動の一環として1962年に発刊された元朝鮮総連幹部の関貴星の名著『楽園の夢破れて』を復刻し、知られざる《帰国運動》の真相を掘り起こし、改めて北朝鮮と朝鮮総連の罪を問い直しました。

1999年に発表した『北朝鮮に消えた友と私の物語』は親友だった尹のことを取り上げたものでした。北朝鮮に帰国して間もなく消息が途絶えた親友をめぐる数奇な出会いと独裁下の不条理を描いたものです。この著作で、第30回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞しました。

翻訳書には、金芝河『長い暗闇の彼方に』（中央公論社）、黄長燁著『金正日への宣戦布告 黄長燁回想録』（文藝春秋）など多数あります。

## 2 朝鮮高校の無償化問題

私が名誉代表を務める「守る会」は、北朝鮮収容所国家からの解放を目指す理論誌と銘打ち、2007年12月に『光射せ!』創刊号を発行しました。以来、年2回の出版を続けています。2010年7月に発行した『光射せ!』5号では民主党政権が打ちだした高校の授業料無償化の対象として朝鮮高級学校も含めるという動きを取り上げ、これに反対する姿勢を明らかにしました。

当時、一般紙は、産経を除いていっせいに朝鮮高級学校を無償化の対象から除外すべきではないという社説を掲げました。2010年3月3日付東京新聞の社説にはこうあります。

「確かに北朝鮮は独裁国家だが、在日朝鮮人の子どもたちはまったく別の社会で生きている。朝鮮籍を理由に教育の機会を制限すれば差別を助長するだけだ。・・・授業は朝鮮語で行われるが、語学や朝鮮史などを除けば、日本の学習指導要領に準じた教育をしている。朝鮮学校のスポーツチームは日本の高校の競技大会に出場しているし、日本の多くの大学は同校卒業生の受験資格を認めている。教育現場では、既に朝鮮高校を高校として見なしている。かつては北朝鮮の体制をたたえる思想教育が盛んだったが、いまは父母たちの要望で、民族の言葉と文化を学びながらも、日本の社会についての知識、技能の習得にも力を入れているという。子どもたちの未来は日本で生きることにあるからだ。・・・」

朝日、読売、そして毎日も、ほぼ同じ趣旨で社説を掲載しました。

私は強い怒りを感じました。社説を書いた論説委員は、朝鮮高級学校で使われている教科書を読んだことがあるのだろうか。読んでいたら、とてもそんなことは言えないだろう。朝鮮戦争についても、「最初に攻撃してきたのは韓国とアメリカだ」と書

き、「わが国を侵略したアメリカと韓国に対して正義の反撃に乗り出した」という趣旨の、いまだにとんでもない嘘を書いているのではないかと。日本人に教科書を読ませるしかない。読めば、さすがに先ほどの論説子にしても、自説の誤りに気がつくだろう。そう思って翻訳を思い立ちました。朝鮮語のできる仲間を募って「朝鮮高校への税金投入に反対する専門家の会」（以下「専門家の会」といいます。）を結成し、入手した教科書を一週間で翻訳し、大急ぎで『朝鮮高級学校教科書 現代歴史高級1～3』を発行し、緊急アピールをとりまとめました（「朝鮮高校『現代朝鮮史』の翻訳・刊行にさいして」より）。

「朝鮮学校教科書の内容は虚偽が多い。……。いうまでもなく、教育の目的は、真実を求めることであり、愛と助け合いで平和に生きるための人材を育てることである。虚偽を教え込むことは、ある種の犯罪である。……。虚偽を教育の柱としている機関に日本の公費をつぎ込むことは犯罪に手を貸すことになる」

2012年10月、「守る会」は、『金正日将軍様のお言葉』にしたがい、朝鮮総連が管理する朝鮮学校の秘められた目的・知られざる実態」と銘打ち、朝鮮高校での教育が重要な歴史的事実を歪曲・捏造し、北朝鮮指導者への忠誠心を植えつける洗脳教育であることを明らかにし、「朝鮮学校への財政支援は許されない！！」とするパンフレットを発刊しました。

### 3 高級学校教科書『現代朝鮮歴史』のなかの歪曲と捏造

(1) 朝鮮高校の現代史の教科書は「現代朝鮮歴史」の表題で3巻まであり、各学年ごとに1巻ずつ学ぶとされています。

1、2、3巻を通じてまず目につくのは、金日成、金正日に対する徹底した個人崇拜と偶像化です。ほとんどの頁に金日成と金正日が「敬愛する主席様」「敬愛する将軍様」という尊称と美辞麗句を伴って登場します。

3年生用を見ると、金日成・金正日父子の写真掲載が23回。3頁半に1回の割で親子の写真が出てきます。そして金日成への言及が67回（2頁半に1回）、金正日は86回（2頁足らずに1回の割り）。これでは歴史ではなく金親子の家系史を学んでいるといっても過言ではありません。

(2) 1年生用は日本の敗戦による第2次大戦の終結後から朝鮮戦争の停戦までを扱

っています。

朝鮮戦争については次のように書いています。

「米帝国主義のそそのかしのもとに李承晩は1950年6月23日から38度線の共和国地域に対する集中的な砲射撃をおこない、6月25日には全面戦争に拡大した。

共和国政府は即時李承晩「政府」に戦争行為をただちに中止することを要求しつつ、もしも侵攻をやめなければ決定的な対策をとるであろうと警告した。

しかし敵どもは戦争の火を引き続き拡大した。

6月25日、共和国に作り出された嚴重な事態と関連して朝鮮労働党中央委員会政治委員会が招集され、次いで共和国内閣非常会議が開かれた。

敬愛する金日成主席様におかれては、会議において、朝鮮人をあなどって飛びかかるアメリカのやつらに朝鮮人の根性をみせてやらねばならないとおっしゃりながら共和国警備隊と人民軍部隊に敵どもの武力侵攻を阻止させ、即時反攻撃に移るように命令をお下しなされた」(79頁)。

これが事実でないことは北朝鮮と朝鮮総連以外の人間はみな知っています。金日成が2年にわたる周到な準備のもとに7個師団の大部隊で南に攻め込んで朝鮮戦争が起きたことを、朝鮮戦争時に米軍が押収した160万頁の北朝鮮文書をもとに立証した私が黙っているわけにはいかない。これについては『朝鮮戦争——金日成とマッカーサーの陰謀』(93年、文春文庫)に書いています。

また、『朝鮮戦争の謎と真実』(01年、草思社)の著者トルクノフはソ連崩壊後に公表されたロシア側の秘密資料で、金日成とスターリン、毛沢東の連携のもとに南を攻撃したことを明らかにしています。

朝鮮戦争開戦から60年の今日、いまでも虚偽を教えられている朝鮮高校の生徒がかわいそうです。虚偽を真実と教え込めば命を賭して韓国とアメリカ、さらには後方支援した日本に復讐しようとする若者を生みかねません。南北統一にも逆行し、日本との共生にも反しています。

- (3) 2年生用の現代朝鮮歴史は、朝鮮戦争停戦後から金日成と金正日が個人独裁体制を確立していく課程が取り上げられています。北朝鮮が今日核兵器による恐喝に頼るしか体制を維持できなくなった契機は1967年5月に強行された甲山派を肅

清したクーデターでした。教科書は次のように記述して、これを美化しています。

「1960年半ばにアメリカの侵略策動と現代修正主義(当時のソ連を指す)の圧力がいっそう強化されて、共和国をとりまく情勢は非常に緊張し複雑になっていた。

こうした時期に、難関の前で動揺していた一部の人たちは、現代修正主義路線をそのまま受け入れて、共和国を修正主義の道に引き入れようとした。

ブルジョワ、修正主義思想に染まっていたこの人たちは、千里馬運動と並進路線、反帝反米戦略と祖国統一の方針をはじめ、党の路線と政策を歪曲して、その貫徹を極力妨害した。(中略)

しかし、当時一部の活動家たちは党の路線と政策にもとづいて、それを正しく見分けることができずに、彼らに盲従妄動する現象まで見られた。

敬愛する将軍様におかれては、朝鮮労働党中央委員会で活動されながらブルジョア・修正主義分子たちの正体を見抜かれ彼らの策動を阻止するための対策をお立てなされた。敬愛する主席様におかれては作り出された情勢と党内の状況を分析され、1967年5月朝鮮労働党中央委員会第4期第15回全員会議を招集なされた。

会議においてはブルジョア、修正主義分子の策動が全面的に明らかになり、党の唯一思想体系を確立することに関する問題が討議された。(中略)

全員会議を契機にブルジョア思想、修正主義思想などあらゆる不健全な思想を根こそぎにし、主体思想で武装するための活動が力強く展開された。(中略)

党の唯一思想体系を打ち立てるための活動を通じて、全人民は敬愛する主席様の周りにいっそう固く団結するようになり、自主、自立、自衛の路線を固守して進むことができる確固とした保障が得られることになった」(65～67頁)

これでは朝鮮労働党のプロパガンダそのものです。1967年、金日成が対抗勢力を肅清し、マルクス主義とは異なる主観的観念論であるチュチェ思想を唯一思想体系としたことで、極端な個人崇拜と息のつまりそうな思想統制が徹底されることになりました。自由闊達な批判が禁じられ、人々に笑いが消え、強制収容所と飢餓の国にかわっていったのでした。「現代朝鮮歴史」は、権力側の政治宣伝を正しいも

のとして無批判に教え込んでいるのです。

(4) 3年生用の教科書は1980年から2002年までが取り上げられています。

日本人拉致は事実無根と強弁していた金正日政権は、内外で孤立するなかで小泉首相にすりよって日朝国交正常化を画策し、拉致を認め謝罪しました。ところが教科書では金正日の謝罪を敢えて教えていません。

「2002年9月朝日平壤宣言発表以後、日本当局は『拉致問題』を極大化し、反共和国、反総連、反朝鮮人騒動を大々的に繰り広げることによって日本社会には極端な民族排他主義的なふんいきが作り出されていった」(122頁)

小泉首相の訪朝は、金正日の密使が「拉致を完全に解決します」といって小泉首相を呼び寄せた事実を森嘉朗元首相が雑誌で公表しています。ところが教科書は全く反対のことを教えています。

「2002年9月17日には歴史的な朝日平壤宣言が発表された。半世紀以上共和国を敵対視したり遠ざけてきた諸国が共和国政府を正式に認め関係改善の道に踏み切ったのはアメリカの国際的な『対朝鮮包囲網』がくずれ、反共和国孤立圧殺策動が危機に瀕するようになったことを示している」(143頁)。

1997年11月に大韓航空機を爆破し、115人の韓国人の命を奪ったテロは北朝鮮の仕業であることは国際的にも明らかになっていますが、教科書には「でっちあげ」のひと言です。

「南朝鮮当局はこの事件を『北朝鮮工作員金賢姫』が引き起こしたとでっちあげ、大々的な『反共和国』騒動をくり広げ・・・盧泰愚『当選』に有利な環境を整えた」(34頁)。

1980年代に入ると日本に帰化する在日が年々増加するなど在日朝鮮人を取り巻く状況も大きく変わりました。教科書はこう叱りつけています。

「一部の同胞の中では、社会主義祖国と総連組織から距離をおく『在日論』(原

注：在日という条件や『国際化時代』をうんぬんしながら在日同胞たちを日本社会の構成員とみて、祖国や組織から距離をおきながら日本社会との関係のなかで共生の道をさぐらねばならないとの主張をいう)まで出てくるようになった」(41頁)

「少なからぬ同胞が日本人に『同化』して生きることで生活の安定や後代の将来のための道を求めようとし、日本学校に通う学生の数や、『帰化』、『国際結婚』が急速に増加した。またこの時期在日同胞社会の主役となった3世、4世の同胞のなかには民族的誇りや自負心をもって生きるのではなく、名字と名前を維持して『朝鮮系、韓国系日本人』として生きることがあたかも国際化の流れに合っているかのごとく考える傾向が表れはじめた」(108～109頁)。

さらには民団にまで八つ当たりをして非難がましく次のようにいいます。

『民団』ではこうした変化に対処すると言いながら、1994年に団体名から『居留』を削除し『在日本大韓国民団』に改め、1996年3月に発表した『第6次宣言文』では『日本社会で尊敬を受ける模範的な市民になることを目指す』とした」(109頁)。

日本や日本人を罵倒するだけでなく同じ同胞や同胞の若い世代まで敵視したりする。これでは排他的な穴倉にこもって拗ねるだけではないのか！

教科書は、「1990年代の総連は深刻な危機的状況に陥るようになって同胞社会の存在自体が存亡の岐路に置かれるようになった」(109頁)と書いていますが、自業自得というものです。

こういうものを教科書といえるのでしょうか。子どもを政争の具にし、自分たちの体制の維持のための隠れ蓑とすることをやめるべきです。

#### 4 中級学校教科書『朝鮮歴史』の近代史

「専門家の会」は、2011年3月に朝鮮中級学校の『朝鮮歴史』の近代史の部分を翻訳して世に出しました。教科書は中級2と中級3の2冊に別れていて、原始時代から1945年の8月15解放までを扱っています。これらのうちの現代史の部分を全訳しました。2010年4月の朝鮮高校教科書『現代朝鮮歴史』3冊の翻訳・刊行

に続くものでした。

- (1) 現代史の半分が金日成の個人史と金日成一家の家系史でした。しかも“金日成の抗日闘争”なるものがソ連や中国の成果を横取りしたものでした。植民地朝鮮を解放したのはソ連軍であることは世界の常識ですが、中学校の教科書にはこう書いています。

「敬愛する金日成主席様におかれては、1945年8月9日、朝鮮人民革命軍の全部隊にたいし祖国解放のための総攻撃命令をだされた。朝鮮人民革命軍の部隊はソ連軍との緊密な連携のもと、日帝が誰も破ることができないとうそぶいていた国境の要塞に強烈な攻撃を仕かけ、それを一瞬のうちに打ち破り豆満江を渡った。(中略)

朝鮮人民革命軍とソ連軍の強力な攻撃と全人民的な抗戦の前に、関東軍は滅亡の危機に直面し、わが国の全域で祖国解放を勝ち取るための戦闘が最後の段階に突入した。

これ以上持ちこたえられなくなった日帝は連合国の「ポツダム宣言」を受け入れ、最終攻撃作戦が始まって1週間もたたない1945年8月15日に無条件降伏した。

朝鮮人民革命軍の部隊と人民武装隊は、日帝の無条件降伏の後もあちらこちらであがく日帝侵略軍を討ったし、人民は各地で日本帝国の植民地統治機関をたたき潰し、人民的な地方自治機関を立てていった。

こうして朝鮮人民は、41年間にわたる日帝の植民地統治から解放された。20余年にわたる朝鮮人民の抗日革命闘争は、輝かしい勝利をおさめ祖国は解放された」(146～147頁)。

朝鮮人民革命軍という部隊があったことも、金日成が総攻撃命令を下したことも事実ではありません。この時期、金日成は、満州にあったソ連軍の第88特別狙撃旅団という軍隊にいました。彼は1941年に満州からソ連に逃げ込んで以来、この旅団に属していたのです。金成柱は朝鮮独立には、全然貢献しておらず、日本降伏後の1か月後の9月末頃にソ連軍に連れられて平壤入りし、伝説の英雄「金日成」を名乗り、モランボンのふもとにあった平壤公設運動場(現在の金日成競技場)で民衆の前に登場するのです。教科書に書かれていることは、すべて後世の創作です。



- (2) 失笑を禁じえないのは、「敬愛する将軍様の誕生」の記述です。金正日がロシアで生まれたことはおおよそ北朝鮮に関心のある人なら皆知っていることですが、この教科書では白頭山で生まれたことになっています。

「日帝との最後の決戦のための準備が着々と推進されていた時期の1942年2月16日、敬愛する金正日将軍様におかれては白頭山密営で誕生された。朝鮮人民革命軍の隊員たちは、『ああ、朝鮮よ！ 同胞たちよ！ 白頭山光明星の誕生をここに知らせる！』『二千万同胞よ！ 白頭山に白頭光明星が独立天出竜馬に乗って出現した！』などの文字を彫り込み、将軍様の誕生を知らせた。

日本帝国によって全家族を失い早くから革命の道を歩まれ、敬愛する金日成主席様を忠誠で崇め決死擁衛なされた金正淑お母様におかれては、ご子息を白頭山の息子として育てることを固く心に誓われた。

当時密営には何もかもが足りなかった。お母様におかれては主席様とご自身の軍服を切りちぢめてご子息に着せられた。女性隊員たちは、自分たちの軍服から引き出した綿とハギレをつぎ合わせたふとんをお母様に贈った。(中略)

抗日革命闘士たちは小部隊活動の苦しい時期、敵の後方で困難なたたかいを繰り広げながら、食物が手に入ってもつねに幼い将軍様に思いを馳せ、おもちゃまで作って贈った。訓練の休憩時になると、幼い将軍様を抱いたり、“あんよは上手”をしてあげたり、木馬に乗せたり、歌を教えたりして白頭山の魂を植えつけた。

パルチザンの息子として生まれ、銃煙のしみついた服を着て、突撃の号令とともに成長された将軍様におかれては、世界で一番正義であり固い信念をもった闘士のなかで、生活の真理を学びながら力強くお育ちなされた」(132～133頁)。

このような大仰な文章で金正日をたたえ、朝鮮民族の愛する白頭山で生まれたと説き続けるのは、あの聖なる山への冒瀆です。歴史観はさまざまにいいし、教育内容には干渉しないという方々は、スターリンやヒットラーの生誕を同じように讃えて生徒に教え込む教科書を許容するのでしょうか。

- (3) 教科書は、日本植民地下では、朝鮮半島で資源の搾取、酷い弾圧と強制連行が行われたと書いてあります。

「日帝は自分たちに必要な資源を狂ったように略奪した。1935年、金を約18t略奪したかと思えば、1939年には約31tを綿花も1933年に4683万斤を略奪した。(中略)

日帝はまた、朝鮮人をさまざまな名目で強制的に徴集しこき使った。(中略)

日帝はさらに10代から20代の朝鮮女性たちを日本軍の「慰安婦」として侵略戦争に引き連れていき性奴隷として虐待した。

こうして1937年から1945年まで、さまざまな形で国内外に強制徴発された朝鮮人の数は、おおよそ840余万人をこえた。これは当時朝鮮の人口約2500万名の33.6%に該当する。」(104頁)

この記述はあまりにも極端な「反日教育」です。

- (4) 教科書では、抗日運動内でおきた陰惨な粛清と内ゲバ事件というべき、「民生団事件」についての記載があります。

「抗日武装闘争を武力だけではつぶせないと考えた日帝は、革命隊伍を内部から破壊するために1932年2月、民族反逆者と日帝の手先たちで『民生団』というスパイ団体をつくり出した。『民生団』は警戒心の高い革命家たちと人民の闘争によって、その正体が暴かれ実質的な活動はできないまま、その年の4月に解散した。(略)

高い地位につく機会だけを狙っていた排他主義者たちと宗派主義者たちは、日帝のデマ宣伝に騙され、自分たちの気に入らない朝鮮の革命家たちを疑い、みだりに逮捕した。(略)

反『民生団』闘争を正すことは朝鮮革命を危機から救う重大な問題であった。(略)

敬愛する金日成主席様におかれては、濡れ衣を着せられ『民生団』にされた人々をお救いくださり、さらにはご自身を謀略で落としいれようとしていると疑われていた韓ボンソンという隊員までも固く信じ、正しくお導きなされた。こうして排他主義者たちと宗派分子たちが騒いでいた『民生団』事件の嘘が暴かれはじめた。

しかし排他主義者たちと宗派分子たちは、間違いをあらためるかわりに引き続き『民生団』狩りの遊びを競い合うようにくり広げ、朝鮮人幹部たちを露骨に排

斥した。

このような時の1935年2月、汪清県で大荒い威会議が開かれた。会議に参加した人々は、そのほとんどが反『民生団』事件を誤った方向に持っていった排他主義者たちであった

排他主義者たちは会議で、東満にいる朝鮮人の70%、朝鮮人革命家の80～90%は『民生団』だと言いながら、自分たちが『民生団』をたくさん捕まえることは革命のためになることだと正当化しようとした。そして、朝鮮人は少数民族であるから幹部になれないし、中国の地で活躍する朝鮮の革命家たちが、民族解放のスローガンを掲げるのは間違ったことだと主張した。

主席様におかれては会議で彼らに、もしあなたたちの話が事実だとしたら『民生団』と疑われた人たちが、なんのために3-4年もの間、遊撃根拠地で寒い冬のあいだ食べることも着ることもできないのにたたかって来たのかと反問された。

そして、そんなに多くの人たちが『民生団』であるならば、私たちはこの場で安心して休むことも会議をすることもできないはずだし、遊撃区はすでになくなっていただろうと話された。ことばを続けられて、『民生団』とされて死にゆきながらも『朝鮮独立万歳!』と叫んで死んでいった彼らが果たして『民生団』であろうかと話され、彼らの間違った主張を退けられた」(86～87頁)。

このように「民生団事件」を解決したのは金日成だというのがこの教科書の記述です。この事件は、満州における抗日運動を崩壊させかねないほどのものであり、かつ、北朝鮮の歴史上も決して隠蔽できない悲劇の歴史です。だからこそ、この朝鮮人革命家の大量粛清という悲劇を解決した功績を金日成に与え、彼を美化しようとしているのです。師団長クラスの中国人の幹部がいる中国兵の大集団に対して200人ぐらいを率いていたにすぎない、たかだか小隊長ていどの1グループの長に、そのようなことができるはずがありません。すべてコミンテルンの方針に沿って内ゲバをやめて共通の敵ファシストと戦え、という大方針に沿っただけのことです。金日成を偶像化するために捏造された歴史歪曲の典型の一つだといえます。

## 5 朝鮮総連(朝鮮労働党)による不当な支配

### (1) 組織的支配について

朝鮮総連は、そのホームページにおいても朝鮮学校を傘下団体として位置づけて

います。結成50周年に際して発行した『朝鮮総連』（2005年、朝鮮新報社）の中では、「朝鮮学校の運営は、朝鮮総連の指導のもと教育会が責任を負っている。教育会は中央、県、学校単位で専従の活動家と同胞学父母を中心に組織されている」とあります（同62頁）。

「教育会」は、朝鮮総連中央本部の機関である「朝鮮総連教育局」が直轄して学校ごとに設置され、実質的に学校運営を担っているものです。

教育会会長らは朝鮮総連の組織員らが任命されています。そして、教育の人事や学校の資産売却などの重要決定は、朝鮮総連が直接下しているといえます。

各種学校としての朝鮮学校の法的な運営主体である学校法人「朝鮮学園」（なお、兵庫県内の朝鮮学校7校の法主体は学校法人兵庫朝鮮学園です。）の理事会は形式を整えるだけの表の顔であり、有名無実化していて、提出の必要が生じたときに架空の議事録を作成している存在です。登録されている理事の中には、自分が理事であることを知らない人もあると報道されています。

「守る会」は「2013年度在日朝鮮人教育会中央常任理事会事業方向及び事業計画」と題する文書を入手しましたが、これは今年の中央常任理事会の方針書です。そこでは、金正恩を「敬愛する元帥様」「卓越し、洗練された領導」と金日成や金正日に匹敵する敬語を使って個人崇拝をあおり、教育会専任のイルクン（専従活動家）に対する金正恩の偉大性についての学習ないし思想教育を強化していくとあります。

このことは、朝鮮学校が金王朝独裁を賛美する個人崇拝教育、あるいは宗教的政治思想であるチュチェ思想によるカルト洗脳教育を施す学校であり、金日成、金正日なきあとも、金正恩の指示や発言を「お言葉（マルスム）」と奉り、その指示に無条件に従う機関であることを証明しています。

## (2) 思想的支配について

朝鮮総連はチュチェ思想をすべての活動の基本方針としています。チュチェ思想は北朝鮮の唯一思想体系であり、金日成と金正日に対する個人崇拝や偶像化に寄与するものであり、その演説や談話に「お言葉（マルスム）」として絶対的権威を与えました。朝鮮学校の運営とそこでの教育における「お言葉」の核心は、次のような指示です。

「教員のなかに党の唯一思想体系の確立していない者が、一人もいてはならない」（金日成）

青年は「チュチェ思想を確固たる信念とし、いつどこにあってもチュチェ思想の要求どおりに思考し行動し、ひたすらチュチェ思想の要求どおりに働き、生活すべきです」(金日成)。

このように、青年をチュチェ思想で「一色化」することを赤裸々に指示しているのです。

ところで、チュチェ思想の思想内容はどういったものでしょうか。それは「人間があらゆるものの主人であり、人民大衆は歴史の主体である」といいながら、その主体になれるのは、金日成・金正日の指導に従ったときだけであると説きます。そして、人には肉体的生命より大切な社会的政治的生命があり、それは社会的政治的集団の一員となって領袖と組織的、思想的に結合することで得られる。大切な社会的政治的生命を人々に与えるのは、社会的政治的集団の最高頭脳である領袖であり、その指導のもとにあつてこそ、人は真の生きがいと幸せを得ると主張します。このように、チュチェ思想は人々が主人だといいいながら、実際の主人は領袖一人であり、人々はその指示にしたがって生きるように説くのです。ここにチュチェ思想の危険なカルト的性質(絶対者への忠誠心を植え付け、特異な教義に無批判に従わせる心理を作りあげること)が現れています。

2012年1月に平壤に行き、「迎春公演」の舞台に出演した東京朝鮮学校の生徒は、「将軍様! 逝ってはなりません! 逝ってはなりません!」と切々とうたい上げ、「私たちを守って下さった金正日将軍様を私たちは永遠に忘れません」「金正日将軍様の遺訓を守り、金正恩先生だけを固く信じ、従います」と決意を披露しました。歴史上の物語であるとか、架空の人物の話としてなら一つの作品として鑑賞することができますが、現政権の権力者に対してその人「だけを固く信じ、従います」と生徒に誓わせることは不適切です。しかも純然たる演技として行われているのではなく、生徒たちの真実の思いとしてなされているところが問題です。たんに教室に掲げられている肖像画を外させれば良いということではなく、このような思想教育と生徒指導が行われ、子どもたちの意識に深い影響を与えていることこそ問題とすべきです。

朝鮮学校は「平壤公演は在日朝鮮学生少年芸術団が行ったもので、学校とは別である」と言うかもしれません。それなら、在日朝鮮学生少年団と朝鮮学校との関係や在日朝鮮学生少年芸術団との関係を、少年団責任指導担当員の配置と役割を含め

て明らかにし、一切の関係を絶つことを明確にすべきです。

2012年6月の報道によると、朝鮮総連が金正恩の発言を収録した「正恩語録」といえる資料を作成し、幹部向けの講習会を始め、朝鮮学校長向け講習では「正恩体系」に基づく教育が指示されたということです。6月5日から7日には全国の朝鮮学校長を対象に講習会を開き、そこには校長69人が出席し、許宗萬現総連議長が「金正恩指導体系が確立されるよう、確実に教育せよ」と指示したといえます。

ここにも朝鮮総連が朝鮮学校を支配し、完全に支配下においていることが表れています。朝鮮総連は北朝鮮政府・朝鮮労働党の指揮下で、「チュチェ偉業」の実現に取り組む学習班を核とした政治団体です。その下部組織である朝鮮青年同盟は「主体偉業の継承完成」に献身することを基本任務とし、北朝鮮「政府の政策を高く奉じ」、朝鮮「総連の諸般決定執行の先頭に立つことを明示し、「主体の世界観で武装する」と定めた団体です。

朝鮮学校における思想的支配がこのような形でなされていることは、学問の自由を尊重しつつ、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培い、個人の価値を尊重して、創造性を養い、自主及び自律の精神を養うとする教育の目標（教育基本法第2条）に違反しています。

### (3) 教科書と学習内容の決定について

朝鮮学校で使用される教科書は、朝鮮総連の傘下団体である学友書房が朝鮮大学校の協力のもとに作成したものを朝鮮民主主義人民共和国教育省が検閲したものです。

韓国に脱北した張真晟という詩人がいます。この人は文才を買われて金正日の身近で仕事をする事になりましたが、北の統一戦線部にいた自身の体験で、在日朝鮮人の民族教育の教科書は北でつくっていると韓国のネット上で証言しました。

「なによりも朝鮮総連学校の教科書からして教育の欺瞞である。朝鮮総連教科書は、自分たちが編纂するのではなく朝鮮大学校で記述した草案を北朝鮮に送り修正、削除を受ける。指導機関も教育省ではなく朝鮮労働党の統一戦線事業部の第101連絡所が担当する。101連絡所は平壤市中区域の蓮花洞にあり、統一戦線部内の文化連絡所として朝鮮総連の月刊雑誌『時代』を修正、決済する。101連絡所は、朝総連がいまかかえる課題と目的まで反映した教科書を修正補完して813連絡所に贈る。813連絡所は101

連絡所と同じ区域内にあり、統一戦線部の出版連絡所として完成原稿を朝総連にわたし、彼らはこれを日本で印刷する。」

「統一戦線部がこうした完璧な作業をするのは、すべての決定事案を唯一批准制度の党原則に従って金正日の最終サインをもらうためである」

学習内容やカリキュラムを決定しているのは朝鮮総連中央教育局であり、同教育局を指導している朝鮮労働党です。各学校の教育会や学校法人朝鮮学園の理事会は全く教育内容やカリキュラムについて関与する余地はないと思われます。

朝鮮高級学校で使われている教科書『現代朝鮮歴史』と朝鮮中級学校で用いられている『朝鮮歴史』の内容が、金日成、金正日という独裁者の賛美と偶像化を目的とし、民生団事件、朝鮮戦争、大韓航空機爆破事件、日本人拉致事件などの重要な歴史的事実についてねじ曲げられていることは前述したとおりです。

生徒らに国際的な常識や歴史的事実に反する知識の学習を強いる朝鮮学校での「教育」は、まさしく金王朝を礼賛する朝鮮総連という政治団体による「不当な支配」の結果です。

#### (4) 人事的支配について

朝鮮学校の校長の人事はすべて朝鮮総連がきめています。各都道府県の本部には、初級学校、中級学校の校長の人事権がある。全国で10箇所ある高級学校は朝鮮総連の中央委員会が任命します。

それについてかつて朝鮮高校の教員をしていたある在日朝鮮人はこうのべます。

「大阪朝高の校長金淳喆は、朝鮮総連中央から派遣されてきた人であるし、この4月(2010年)には朝鮮総連中央の教育局長として戻っている」(『光射せ!』第5号10頁)。

朝鮮高校以上の学校の校長はすべて朝鮮総連の中央役員がおさまり、朝鮮総連中央委員会と相互乗入れを自由に行っています。教員は朝鮮総連幹部ないし朝鮮青年同盟(青年同盟については後述します。)の幹部です。彼らは日本という在学組織であるから「学習組」と呼ぶが、共産党の基本組織の党細胞のことです。また、朝鮮総連の中央役員は、みな朝鮮労働党員です。

ところで、学校教育法の第9条は校長・教員の欠格事由を定めていますが、第5号





私学振興・共済事業団を抵当権者とする7つの抵当権（①平成7年3月27日、7000万円、②平成7年3月28日、3200万円、③平成8年5月7日、1億5700万円、④平成8年5月7日、1億8880万円、⑤平成8年5月7日、2億500万円、⑥平成8年6月4日、1億7800万円、⑦平成8年9月24日、2億600万円）設定されていますが、これも時期と金額からみて実質的には朝鮮総連が返済資金調達のために担保設定をしたものと推測されます。

在日同胞の総有だとされている朝鮮学校の資産が朝鮮総連によって担保提供されているという事実は、学校法人朝鮮学園が単なるダミーであり、朝鮮学校の財政を支配しているのは朝鮮総連であることを如実に表しています。

#### (6) 朝鮮青年同盟による生徒支配について

朝鮮学校の生徒は、初級、中級学校では少年団への加入が義務づけられています。高級学校に入ると朝鮮青年同盟（朝青）に強制的に加入することになります。朝鮮初級、中級学校と少年団、朝鮮高級学校と朝鮮青年同盟は、それぞれ組織として一体化しています。初級・中級学校には少年団責任指導担当教員が配置されており、朝鮮高級学校には朝鮮青年同盟責任指導担当教員がもれなく配置されています。

東京朝鮮中高級学校のホームページには、学校の年間行事が掲載されていますが、その中の4月には入学式とともに「朝青加盟式」が、2月には「朝青定期大会」が組み込まれていて、ここからも学校と朝青と一体化していることが分かります。

朝鮮青年同盟とはいったいどのような目的を持って活動しているのでしょうか。

「在日本朝鮮青年同盟規約」には次のようなことが書かれています。

第1条には、朝鮮総連の綱領と朝青規約を支持賛同する青年の組織であり、「在日同胞の民族的権利を擁護し、主体偉業の継承完成のために献身することを基本任務とする」組織だと書かれています。「朝鮮民主主義人民共和国の政策を高く奉じ」、「総連の諸般決定執行の先頭に立」ち、「在日青年学生たちがチュチェの世界観をしっかりと樹立して、真の愛族愛国思想で武装するための」事業を行うと宣言しています。そして、「朝青は、自身のすべての活動を総連の指導の下で行う」と定めています。

学校との関係も規約で具体的に定めています。

第38条で、「朝鮮高級学校（東京・神奈川・茨城・北海道・愛知・京都・大阪・神戸・広島・九州）には朝青中央委員会の批准を受けて朝青朝高委員会を組織する」としています。事実この規定どおり、すべての朝鮮高級学校には朝青朝高委員会が組織されており、学校当局も、この規定に従うかのように、青年同盟責任指導担当員を

配置しています。

第40条では「朝青各委員会や朝高委員会内には部門別あるいは学級別に班を設けることができる」となっており、朝鮮学校のクラスが朝鮮青年同盟の組織である「分<sup>①</sup>班」<sup>①</sup>として運営されている実態を裏付けています。この規約に基づいた朝青の学校内組織を朝鮮学校が作り、朝青青年同盟の活動を学校教育の一環に組み入れて実施しているのです。

第42条では、朝青の第一の任務として「朝青員や在日朝鮮青年たちに朝鮮民主主義人民共和国政府の諸般政策やその具現のための総連決定を解説宣伝し、執行すべく彼らを積極的に組織動員する」と明記しています。さらに、「在日本朝鮮青年同盟と在日朝鮮学生少年団」と題した第8章で少年団との関係を定め、その第43条で「総連の指導の下に学校単位で組織された在日朝鮮学生少年団の活動を支援指導する」としています。つまり、初級学校4年から中級学校卒業まで生徒全員を入団させている少年団を朝青が指導し、朝鮮高校に入学すれば朝青に加盟させていく仕組みが作られていて、それを学校ぐるみで実行しているのです。その責任担当教員もすべての朝鮮学校に配置されているのです。

朝鮮青年同盟中央常任委員会が発行した「主体101(2012)年朝青の主力課題について」と題された朝鮮語の文書があります。2012年初めに作成された朝青の方針を記した文書です。この文書では、まず「偉大なる將軍様が」提示してくださった「綱領のお言葉を徹底貫徹することで、偉大な將軍様の生前に捧げられなかった忠誠の報告を申し上げねばならない」と述べ、「朝青隊列を、代を継ぎ領導者と祖国に衷情を尽くす一心団結の集団にしっかり固め」、「朝青組織の中に敬愛する金正恩同志の思想体系、領導体系を徹底的に打ち立てることに総力を結集」と表明しています。そして「総連イルクン(専従活動家)学習班に誠実に参加し、一寸の隙も生じることなく偉大な將軍さまの生前のお志しどおり活動していく決心と意思を固める」というのです。つまりこれは、学習班という朝鮮労働党の非公然の日本国内組織に参加し、亡き金正日の期待通りに活動するということです。

そして、「敬愛する金正恩同志を祖国統一の救いの星として、民族のもう一つの太陽として仕えていく」と表明しています。

以上のように、朝鮮青年同盟は徹頭徹尾北朝鮮の現政権権力者への忠誠を誓い、その指示を絶対化して勢力を拡張しようとしている特殊政治・思想集団です。このような集団が学校と一体となって生徒・学生を組織し、学校を使って影響を広げようとし

ているのです。これでは朝鮮学校を在日の民族教育の場などとはいえず、在日の子どもたちの公教育としても失格です。

(7) 進路指導における生徒支配について

「2013年度在日本朝鮮人教育会中央常任理事会事業方向及び事業計画」には、「不退転の覚悟で今年の教育会に提起された基本課業を遂行していく」として、「学生引き入れ事業と日本の学校への転出を防ぐための事業に全機関的な力を入れる」とあり、「日本学校へ転出が憂慮される対象をあらかじめ捕捉し、日常的な接触を通じて説得<sup>強要</sup>教養をするようにする」とされています。

これは朝鮮学校OBの元智慧さんの朝鮮中級学校での経験を裏付けるものだと思います（『光射せ!』6号）。

「当時、私は、進路のために日本の高校へ進学したいと希望したが、ゆるされるはずもなくあらゆる手段でそれは妨害された。あるときは、学校長から個人的に呼び出され、数時間におよび訊問され精神的に追い詰められた。朝鮮学校職員であった私の父にも脅迫がおよび、家族で耐え忍ぶ日々が続いた。そして、自分の知らない所で朝鮮高校への願書が作成され、私の進路は無残にも崩れ去ってしまったのだ」

元さんは朝鮮高校でも同様の経験をしています。

「当時の朝鮮高校では、高校2年と3年時に1週間弱の合宿が行われた。…。朝早くから夜遅くまで、終日金日成の主体思想や偉大さについて叩き込まれ、国家への忠誠心をいく度も強要される。そこで少しでも疑問を投げかけようものなら、教職員や同級生から信じられないほどの非難を浴び、自己総括させられる。

とくに自分の将来について考えない者は、ここで驚くほど簡単に洗脳され朝鮮大学校への進学を決めてしまい、合宿以前とはまるで違う人格になっていた」

朝鮮高級学校の時、日本の大学への進学を希望していた友人の「意識を徹底的に改造させ」る時間がもたれた。

「数時間も非難される彼を私は弁護したが、そのうち私までも反社会主義的だ

と、不当に弾劾されることとなった。

彼のプライドは弄ばれ、私を含む彼の仲間たちはその後幾度も教師たちに反発しては、その度に執拗な暴力を彼らから受ける事となっていた」

そして元さんは、先生から恐ろしい言葉を聞かされるのです。

「ある教員が私にこう話した。『民族教育は、北朝鮮と総連のための幹部を養成するもの。個人の資質や将来などどうでもいいのだ』と」

朝鮮学校の「教育」の本当の姿は、カリキュラムや教室の様子だけでは知ることができず、教科書を見るだけでもまた十分ではないことを示しています。

さらに元さんは朝鮮高校と朝鮮大学の学習班について、学校という教育の場にあってはならない次のような事実を語っています。

「当時は『学習班』という非公然組織も存在した。公安当局からも監視されるその実態は、上層部が選りすぐった人物を組織のエリートとするためのものであり、いわゆる裏組織であった。通常のカリキュラムとは別に特別な教育を受ける、さしづめ精鋭部隊といったところか。彼らは、北朝鮮の工作員となるべく金日成主義を徹底的に叩き込まれ、すべての者が朝鮮大学校に特別枠（授業料その他すべて免除）で入る。そしてその後、当局の指示のもと、対日工作や対韓工作などさまざまな型での工作活動に加担していくのだ」

日本の学校への転出を希望する生徒に対してなされる「説得強要」の実態は、朴斗鎮さんの著書『朝鮮総連—その虚像と実像』（中公新書ラクレ）にもあります。

「朝鮮総連は子どもたちの『学ぶ権利』に対しても圧力を加え、著しくそれを侵害している。朝鮮総連は『子どもの権利条約』を口にして『朝鮮学校で学ぶ権利』は主張するが、子どもたちが『その人格の完全なかつ調和のとれた発達のため』、朝鮮学校から日本学校へ進学しようとする事については認めない。それを阻止するためさまざまな圧力を加えている。」（170頁）

として朴さんの子どもの例を紹介し、長年総連の機関で専従職員として働いていた妻が何の補償もなく朝鮮総連本部から「解雇」を言い渡されたことが報告されている。

「こうしたことは、私の家庭だけにとどまらない。私の同級生や先輩の中には、子どもの希望で日本の高校に進学させるために、左遷されたり解雇されたりした人たちが多数いる。子どもの意思を尊重して、事前に自ら朝鮮総連の職を辞した人も多い。こうした圧力が通用しない一般の朝鮮人学父母に対しては、進学のための書類作成を拒否するとか、日本学校への進学希望者を生徒の中で孤立させるといったさまざまな『いやがらせ』が行われている」（171頁）

朝鮮総連の組織防衛が生徒の『学ぶ権利』に優先しているのです。朝鮮学校に対する総連の支配があるべき教育の姿に反しており、教育基本法が禁じる「不当な支配」であることを示す例です。

## 6 総括

兵庫県の朝鮮学校に対する補助金は1億数千万円という巨額です。まず人口。2005年に朝鮮総連が発行した『朝鮮総連』によると、兵庫県には6万1387人の在日朝鮮人が住んでいる。大阪には14万9168人。2013年まで大阪府は1億2000万円の補助金を出していました。人口で大阪の41%に過ぎない半分以下の兵庫県が1億9300万円ほど出していました。大阪は24年度から補助金を全廃しましたが、兵庫県は依然として1億数千万円も出している。

今年6月の知事選に出た現職の井戸敏三知事に対し、私は「守る会」の名誉代表として、「専門家の会」の代表として公開質問状を出し、その理由を問いました。

知事は、「本件には、142ヶ国約10万人の外国人県民が暮らしており、その子弟である外国人児童・生徒等の教育の機会均等を図ることが重要であると考え」として「25年度も朝鮮学校6校を含め振興費補助を予算計上しています」と5月15日付けで回答してきました。従来どおり1億数千万円を朝鮮総連の学校に与えるということです。

このあきれた回答の裏にはさまざまな理由が考えられますがそのひとつに、朝鮮総連の誇大な宣伝攻勢があります。いわゆる1948年の阪神教育闘争です。朝鮮学校閉鎖に反対する在日朝鮮人が兵庫県庁前に数千人が集まり抗議の意思を示しました。そのあと4月24日午前11時、およそ100人の在日朝鮮人が知事室に乱入し、机、いす、電話機、洗面所、衝立、壁などを破壊する暴力行為に及び手のつけられないよ

うな騒乱状態となった。これを見た米占領軍は同日午後11時非常事態を宣言し、26日アイケルバーガー中將が神戸に飛来し、米軍が直接弾圧に乗り出したのです。

こうした経過を知らない人たちが増えたことによって朝鮮総連は事件を過大に描き、われわれはあの米軍と闘ったのだと自賛し、あたかも偉大な闘争であったかのごとく宣伝しています。しかし、事件直後の朝連（朝鮮総連の前身）第15回中央委員会総会（1948年7月26日～28日）でも総括されたが、日本の民主運動との結合もない孤立した戦いに終わったと指摘されています。いわゆる跳ね上がり闘争でした。

4・24事件直後の1948年5月に開かれた朝鮮全国文化部長会議では各地から自己批判が上がり「一般的政治性が欠如し多面的な闘争を展開できず、偏狭な民族的感情で孤立した戦いを展開したために今回の失敗の大きな原因を作った」（朝連機関紙「解放新聞」1948年5月25日付け第136号）とのべています。「失敗」とまで言っているのです。

その後もこの問題は尾を引き、相次ぐ検挙者、米軍の軍事裁判による下獄者、それへの差し入れなど膨大な犠牲者を生み、戦いの方<sup>法</sup>についても数々の教訓を与えました。

一方、兵庫県側には、在日朝鮮人の教育問題に手をつけたらまたも大問題になるとの恐怖の意識があるようです。従来どおり兼<sup>全</sup>ねをやっておけば丸く収まると考えているふしがある。それを見込んで朝鮮総連側も一方的に脅しの材料に使っているのです。

最後に、朝鮮学校に対する補助金の打切りや無償化反対に対しては朝鮮高校に通う生徒に対する民族差別だという声があるが、それは違う。朝鮮高校無償化問題をはじめ取り上げた『光射せ！』5号に掲載された文章をもって本意見書を締めくく<sup>る</sup>ことにしたい。

私は朝鮮高校の生徒諸君を非難するつもりはない。こびるつもりもない。私は君たちと同じ年ごろに韓国から密航してきた少年と大阪府立の定時制高校で机を並べた縁で生涯を朝鮮半島とともに生きることになった。朝鮮語を愛し、朝鮮と朝鮮人に親しんで55年たった。

教育と政治は別だという意見もあるが、私はそうは思わない。誤った政治に若者の心がむしばまれるときは、大人が是正のために声をあげるべきだ。

愛国心とは、ことばを覚えることから生まれると教えてくれたのは、かつて私に朝鮮

語を教えてくれた朝鮮総連の先生だった。君たちが祖国を愛し、誇りとするためにも、今のゆがんだ教育から抜け出て真の民族教育、ことばと歴史と文化と祖国の先人を尊敬する教育を受ける権利が君たちにはある。そのためにがんばってほしいと心から願う。 2010年6月11日

(萩原遼「朝鮮高校の現代教科書には何を書いているのか」より)

以上